

GMAT 数学完全攻略 (第 2~4 版)

正誤表

2018 年 8 月 13 日

本書中、下記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- p.19 標準偏差の定義
誤 データの値と平均値との差の 2 乗の和の平方根。
正 各データの値と平均値の差の 2 乗の合計を、データの総数で割った値の正の平方根。
- p.35 「素数-確認問題 1」の解説本文, (B), (D) の素数に 4 が含まれている。
誤 2, 3, 4, 5, 7, 11, 13
正 2, 3, 5, 7, 11, 13
- p.46 「約数-確認問題 2」の問題 (英語) の選択肢
誤 (A) 96 (B) 110 (C) 147 (D) 169 (E) 182 (F) 225
正 (A) 60 (B) 84 (C) 144 (D) 180 (E) 205 (F) 336 (G) x^5
- p.51 「倍数-確認問題 2」の解説 (C)
誤 下 3 桁が 4 の倍数
正 下 3 桁が 8 の倍数
- p.65 「約数-基礎問題 2」の解説の (ステップ 2)。
誤 $n = -5$ のとき、 $\frac{55+n}{3n} = \dots = -\frac{10}{35} = -\frac{2}{7}$ となり整数でない。
正 $n = -5$ のとき、 $\frac{55+n}{3n} = \dots = -\frac{50}{15} = -\frac{10}{3}$ となり整数でない。
- p.83 「最大公約数・最小公倍数-応用問題 2」の問題文
誤 (2) The least common multiple of x and y is 100.
正 (2) The least common multiple of x and y is 180.
⇒ 問題文を上記のように訂正の上、解説は後添ページのように修正。

- p.120 「余り-確認問題」の問題の選択肢 (D)
 誤 1 で割った場合の余りは 4 である。
 正 12 で割った場合の余りは 4 である。

- p.126 「余り-応用問題 1」のステップ 2
 誤 「余りと倍数の利用」の 3 のパターンに相当。
 7 で割ると 4 余る数は、4, 11, 18, 25, ③2, 39, … である。
 また、5 で割ると 2 余る数は、2, 7, 12, 17, 22, 27, ③2, 37, … である。
 すると、質問文と条件 (2) を満たす n は 32 に 7 と 5 の公倍数を加減した数であるので、
 $n = 32, 32 + 35, 32 + 35 \times 2, 32 + 35 \times 3, \dots$ となる。
 正 「余りと倍数の利用」の 2 のパターンに相当。
 質問文と条件 (2) を満たす n は、7 の倍数には $3 (= 7 - 4)$ 足りず、5 の倍数には $3 (= 5 - 2)$ 足りない値であるので、7 と 5 の公倍数から 3 を引いた値となり、 $n = 35 - 3, 35 \times 2 - 3, 35 \times 3 - 3, 35 \times 4 - 3, \dots$ である。

- p.126 「余り-応用問題 1」のステップ 3
 誤 上記の条件 (2) のみを加えて考えた場合より、 $n = 32, 32 + 35, 32 + 35 \times 2, 32 + 35 \times 3, \dots$
 を満たす $n < 75$ の数である。
 正 上記の条件 (2) のみを加えて考えた場合より、 $n = 35 - 3, 35 \times 2 - 3, 35 \times 3 - 3, 35 \times 4 - 3, \dots$
 を満たす $n < 75$ の数である。

- p.149 「小数-確認問題 4」問題文の和訳
 誤 以下の式を小数に変換しなさい。
 正 以下の式を 10 進数に変換しなさい。

- p.178 「比-応用問題 4」のステップ 3
 具体例の t_1, t_2 および s_1, s_2 が逆。正しくは以下のような説明。

(ステップ 3) 質問文に条件 (1) と (2) を両方加えて考えてみる。

具体例を考えてみる。

$t_2 = 1, s_2 = 2$ とする。すると、 $\frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} = 2$ となる。

そして、 $t_1 = 3$ とする。 $s_1 = 6$ とすると $\frac{s_1}{t_1} = \frac{6}{3} = 2$ となるので、 $s_1 = 5, 7$ を考えれば不等号の異なるものができることが分かる。

つまり、 $(t_1, s_1, t_2, s_2) = (3, 5, 1, 2)$ の時は、以下の不等式が成立する。

$$\frac{s_1}{t_1} = \frac{5}{3} < \frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} \quad (1)$$

一方、 $(t_1, s_1, t_2, s_2) = (3, 7, 1, 2)$ の時は、以下の不等式が成立する。

$$\frac{s_1}{t_1} = \frac{7}{3} > \frac{s_2}{t_2} = \frac{2}{1} \quad (2)$$

以上より、上の 2 つの具体例は条件 (1)、条件 (2) の両方を満たすので、 $\frac{s_1}{t_1}$ と $\frac{s_2}{t_2}$ の大小関係は定まらないことが分かる。

よって、質問文に解答するのに、条件 (1), (2) の両方が揃っても不十分であると言える。
よって、答えは **(E)** となる。

- p.203 「指数-確認問題 2」の解説
 誤 $27^{x+3} = (3^3)^{x+3} = x^{3(x+3)} = 3^{x+1}$
 正 $27^{x+3} = (3^3)^{x+3} = 3^{3(x+3)} = 3^{x+1}$
- p.364 「三角形-基礎問題 2」の問題の和訳
 誤 最大角の大きさは何度か
 正 3つのいずれの角度が最大か
- p.364 「三角形-基礎問題 2」の問題の和訳
 誤 y 軸との交点である
 正 x 軸との交点である
- p.366 「三角形-応用問題 1」の解説 II について
 誤 となるので、MN の長さは 3 となり得る (この時の $\triangle MNP$ は正三角形)。
 正 となるので、MN の長さは 8 となり得る (この時の $\triangle MNP$ は正三角形)。
- p.366 「三角形-応用問題 1」の解説 III について
 誤 となるので、MN の長さは 3 となり得る。
 正 となるので、MN の長さは 12 となり得る。
- p.433 「立体-基礎問題 1」の問題文
 誤 立方体の体積はいくつになるか?
 正 直方体の体積はいくつになるか?
- p.452 「直線の平行・垂直」
 誤 すると、この直線 l の傾きは $\frac{-e}{f}$ である。
 正 すると、この直線 m の傾きは $\frac{-e}{f}$ である。

- p.626 「数列-応用問題 3」のステップ 1 の最後の式
 誤

$$\frac{q_6 + 2}{4q_6} = \frac{1}{4} + \frac{1}{q_6} \tag{3}$$

正

$$\frac{q_6 + 2}{4q_6} = \frac{1}{4} + \frac{1}{2q_6} \tag{4}$$

- p.666 「割合-基礎問題 4」

誤 (1) By the route the airplane took, the distance between Los Angeles and New York is 2,800 miles.

正 (1) By the route the airplane took, the distance between Los Angeles and New York is 2,700 miles.

- p.666 「割合-基礎問題 4」

誤 (2) The total time the airplane spent in the air was 7 hours.

正 (2) The total time the airplane spent in the air was 9 hours.